

第1回 練馬区立石神井台保育園運營業務委託事業者選定委員会  
会議要点記録

令和2年3月23日（月）午前10時～11時

練馬区役所本庁舎 19F 1902 会議室

出席者：学識経験者2名、有識者2名、練馬区立保育園園長経験者1名、  
こども家庭部長、保育課長、事務局（保育計画調整課長）

- 1 選定委員会委員長（こども家庭部長）あいさつ
- 2 委嘱状交付
- 3 選定委員紹介
- 4 事務局より
  - (1) 練馬区立保育園の運營業務委託について  
委託の目的、対象園、スケジュール等について説明
  - (2) 選定委員会について
    - ① 選定委員会設置要綱について説明  
選定委員会設置の根拠となる要綱の確認
    - ② 選定方針（案）について説明  
運營業務委託事業者の選定にあたっての選定方針の確認
    - ③ 審査基準表（案）について説明
  - (3) 石神井台保育園について
    - ① 保育園の概要について説明
    - ② 募集要項（案）について説明
  - (4) 石神井台保育園保護者からのご意見と区の回答および  
石神井台保育園父母の会からの要望書紹介
  - (5) 今後のスケジュールの確認

第2回 練馬区立石神井台保育園運営業務委託事業者選定委員会  
会議要点記録

令和2年5月20日(水)書面開催

出席者：学識経験者2名、有識者2名、練馬区立保育園園長経験者1名、  
こども家庭部長、保育課長、事務局(保育計画調整課長)  
石神井台保育園園長

- 1 石神井台保育園について
  - (1) パワーポイント資料(園作成資料)
  - (2) 園施設動画DVD
- 2 選定委員からの質問、意見の募集
- 3 今後のスケジュールの確認

第3回 練馬区立石神井台保育園運営業務委託事業者選定委員会  
会議要点記録

令和2年6月17日(水)午後5時～5時15分 オンライン開催  
令和2年6月19日(金)午前9時30分～9時45分 オンライン開催  
出席者：学識経験者2名、有識者2名、練馬区立保育園園長経験者1名、  
こども家庭部長、保育課長、事務局(保育計画調整課長)

- 1 選定委員会委員長あいさつ
- 2 第2回書面会議の案件の確認
- 3 応募事業者一覧  
事務局より応募事業者一覧の説明
- 4 今後のスケジュールの確認

第4回 練馬区立石神井台保育園運営業務委託事業者選定委員会  
会議要点記録

令和2年7月14日(火)午後5時30分～6時30分

練馬区役所本庁舎19F 1902会議室

出席者：学識経験者2名、有識者2名、練馬区立保育園園長経験者1名、  
こども家庭部長、保育課長、事務局(保育計画調整課長)

- 1 選定委員会委員長あいさつ
- 2 応募事業者一覧  
事務局より応募事業者一覧の説明
- 3 経営診断報告  
事務局より経営診断報告の説明  
経営診断結果により、応募事業者の経営状況について確認
- 4 現地調査部会報告  
現地調査部会より、応募事業者が運営する保育園の運営管理、保育内容、  
施設管理・環境整備、給食運営、保健業務の各項目について報告
- 5 一次審査(事業者の絞り込み)  
今回、8事業者の応募があった。選定方針に基づき一次審査を行うことについて  
審議し決定した。  
一次審査では、提出書類や経営診断報告、現地調査報告に基づき、各応募事業者  
を相対的に比較し、二次審査対象事業者を合議の上、決定した。  
  
上記の状況を踏まえ、3事業者を二次審査の対象とした。
- 6 今後のスケジュールの確認

第5回 練馬区立石神井台保育園運営業務委託事業者選定委員会  
会議要点記録

令和2年7月19日（日）午前9時30分～午後3時

石神井松の風文化公園内管理棟 多目的室

出席者：学識経験者2名、有識者2名、練馬区立保育園園長経験者1名、  
こども家庭部長、保育課長、事務局（保育計画調整課長）

1 応募事業者プレゼンテーション

運営業務委託に応募した3事業者によるプレゼンテーションを、それぞれ40分  
（事業者のアピール20分・質疑応答20分）行った。

なお、石神井台保育園の保護者23名の傍聴があった。

《保護者からの質問事項に対する回答》

事業者A（社会福祉法人尚徳福祉会）

質問1 石神井台保育園の委託の応募に至った動機と経緯を教えてください。

色々と応募を検討しているので、ホームページは常にチェックしている。  
練馬区の運営業務委託を受託している園できちんと運営できていると思  
っており、比較的近いので、2園になれば交流ができ、職員間の異動も可  
能になるので、より良い保育に近づけられると思い、応募した。

質問2 子どもたちが安全に過ごすために、どのようなルールをつくっているか。

ルールは、子どもたちがかなり納得した形で作られるべきだと考える。  
例えば、片付け一つにしても、大人がまず提案を示すことが大事である。  
2歳児が遊んだ後に、自分で片付けられるようになるために、子どもたち  
の目の前で、大人が楽しそうに、半分遊びながら片付けを繰り返すこと  
によって、片付けは楽しい、という設定をすると、子どもたちは自分で楽し  
そうに片付けている。片付けやすいように、2歳児が片付ける箱はどのよ  
うな大きさが良いかを考え、用意している。そのように手本として見せて、  
自分で片付けるというルールに至っている。職員に対しては接遇研修を行

い、全員受講するようにしている。職員がどの角度からいつ見られて、子どもたちに真似をされても大丈夫な行動や言動をすることを大事にしている。

**質問3 保育士を募集する際の貴法人のアピールポイントは何か。保育士として何を求めているか。**

最近の傾向として、去年は応募者のうち、3分の2くらいは紹介会社を通して来たので、紹介会社との関係は大事にしている。紹介会社から良い法人と認めてもらえるように、きちんとした対応を大事にすると、比較的たくさん紹介してもらえる。次の世代を育てる良い保育園の形を考えたい。非認知能力をきちんと育てられる保育園だと訴えていきたい。

**質問4 石神井台保育園には父母の会がある。父母の会の行事等について、委託後、どう尊重されていくか。園としてどのように関わっていくか。**

父母の会があり、意見が集約されて出るのはとてもありがたい。率直な意見が集まると思うので、出た意見にきちんと対応する。これまで行ってきた行事は、すべて協力して立派にできるようにしたい。

## 事業者B

**質問1 新型コロナウイルス感染症対応にあたり、日々の保育などで一番大変だったこと、工夫されたことは何か。**

新型コロナウイルス感染症について、全職員、園長で共有して、どのようなことに気をつければ良いのか、看護師を中心に勉強会を行った。子どもたちに色々な規制をかけることは、保育の視点で様々な影響が出るのではないかと考えた。日常とできるだけ変わりが無いような活動をするために、人数の制限や、行事を簡素化しながら行うことを心掛けた。施設内の衛生管理が一番重要と捉え、保育に直接関わらない方と連携を取りながら、園内の衛生管理に努めた。子どもたちへの衛生管理として、看護師を中心に、手洗い指導を徹底した。幼児はキットを活用して、一度手を洗ってから、「バイ菌がまだこんなにいっぱい付いているんだよ」と、保育に導入し

て工夫しながら取り組んできた。大変なところはそこまで大きくなかったが、初めての経験なので、全体の連携を図ることに努めてきた。

**質問2 保育士を確保するために、あるいは、保育士を育てるために、園や法人として具体的に取り組んでいることは何か。**

園長としては、常に職員の声聞くことを心掛けている。大きな問題になる前に小さな課題に気づき、解決することができている。指導・育成に関して、職員一人ひとりの経験や能力が違うため、役割をしっかりと伝え、振り返りの時間を大切にしている。ノートを利用するなどして、成長を感じている。日々の職員のスキルに合った形での研修計画を、一年間、本部を中心に立てている。法人で等級制度を決めているので、新人、中堅、主任、上級者の研修を行い、力を入れている。

**質問3 職員確保の見通しはいかがか。**

26年の歴史がある。様々な学校や保育士を目指す職員に、当法人で働いている職員から「弊社で働かないか」と勧誘している。先輩の働きを実際に見ているので、そういった地道な活動を行い、採用している。全国で採用しているので、住戸環境を整備して長く勤めてもらえるよう、取り組んでいる。採用は非常に難しい状況で、業界全体の課題だと思う。法人としては、現在働いている保育士からの紹介を重視している。法人のすばらしさを伝達して、保育の理念、目的に照らして賛同してくれる人を紹介してもらう制度を特徴としている。一般的に、リファラル採用と呼ばれている。

**質問4 石神井台保育園には父母の会がある。父母の会の行事等について、委託後、どう尊重されていくか。園としてどのように関わっていくか。**

父母の会がどのような活動を行っているか、引継ぎ期間にしっかり傾聴する。忙しい中で活動をしていただくことはありがたいと思っているので、園ができることは一緒に協力しながら、子どもたちのために、取り組んでいけたらと思う。

## 事業者C

質問1 新型コロナウイルス感染症対応にあたり、日々の保育などで一番大変だったこと、工夫されたことは何か。

このようなことが100年前にもあったことを踏まえて、BCP等に入れ込めていなかったことは、反省がある。インフラとして機能するために、例えば、備品は結果として充足したが、アルコールやマスクを含めて一時的に不足しそうになり、グループ全体で海外のマーケットから仕入れるなどの対応をしなければならなかった反省がある。グループ全体で支援できた結果、備品が欠けなかったことは良かったが、備品関係は大きな課題になった。コロナウイルスの状況下で開園することの保育士の心の負担のケアも大きな課題になった。現場支援のために、4月は本社のリモートワークをせずに、現場に問合せがあったときは、速やかに対応できるようにしていた。会社全体でコロナウイルスが広がる中で、不安を持ちながら勤務していたことは問題だったと思う。体温測定や日々の健康状態の把握は、全社員で取り組んできた。一部の保育園の保護者を含めると感染者は出たが、大きな問題にならない状態で、休園等の措置や自治体や保護者との連携ができた。イレギュラーなことを速やかに対応できたことは評価できると考えている。まだ収束していないので、園児、スタッフ、保護者との連携やケアをどうすべきかは、課題として残っている。

質問2 子どもたちが安全に過ごすために、どのようなルールをつくっているか。

当然ながら、すべてのルールを子どもたちに押しつけることではない。主体性に関して、まずは見守る。例えば、園庭遊びで、これをしてはだめ、と始まるのではなく、遊具で遊ぶときに、なぜこうなると危ないと思うかを考えてもらうことが、結果としてルールを自ら見つけることに繋がる。ルールを守らせるのではなく、教える、覚えてもらうところに大きな違いがある。それが結果として、自ら学ぶ場の形になる。ただ、この考え方がすべてだと難しい部分もある。緊急で危ないことがあったときに、子どもたちにしっかり考えてもらう体制ができているかと言うと、できていない部分もある。その部分も含めて、これからも保育の質のアップが必要だと考える。



### 質問3 職員確保の見通しはいかがか。

新卒に関しては、毎年3月くらいから動くが、今年は一切できないでいた。徐々に、学校や専門学校に周知できるようになり、今まではイベントやホームページで告知して集まってもらっていたが、直接、応募してもらえるような環境になった。結果として、去年と同じくらいの人数、内定を含め30名程度の採用が決まっている。中途採用に関しても、今のところ大きな影響はない。地方の方の転居を含めた支援が東京都全般の保育園には欠かせないと思っている。地方転居の方が、今の東京の状況でどれだけ確保できるかは未知数である。一早く、そういった方々へのフォローアップを含めた対応を行いながら、必要であれば、(本社から)保護者の方々へ説明することで対処している。今のところは問題ない見立てだが、これからの圧迫を踏まえて、もう少し対策をしなければと考えている。

### 質問4 石神井台保育園には父母の会がある。父母の会の行事等について、委託後、どう尊重されていくか。園としてどのように関わっていくか。

一般的な保育園や幼稚園では、保護者の方に覚えてもらう、教える、といったワードが出るが、そうではなく、子どもたちが中心となって、一緒になって子育て、保育をしていく。仲間と言うと失礼かもしれないが、チームではないかと思う。仕事をしていてお預かりする中で、保護者の方が分からない、園が伝えなければいけない部分をお伝えする役割がある。一緒に保育をしてもらう取組を去年から行っている。保護者が一緒になって保育をすることで、自分のお子さんを日々に見ている視点と違う視点で、子どもがどういった顔をしているかを知ってもらう。そうすることで、家庭内での支援も変わってくると思う。そのような場としての役割もあると思う。情報をベースにしながら、どこまで支援できるか、寄り添えるかが一番重要なポイントだと考える。

## 2 園長候補者等ヒアリング

運營業務委託に応募した3事業者に対するヒアリングを、それぞれ30分(園長候補者のアピール10分・質疑応答20分)行った。

第6回 練馬区立石神井台保育園運営業務委託事業者選定委員会  
会議要点記録

令和2年7月30日(木)、8月4日(火)

応募事業者が運営する保育園の視察

出席者：学識経験者2名、有識者2名、練馬区立保育園園長経験者1名、  
こども家庭部長、保育課長、事務局(保育計画調整課長)

応募事業者が運営する保育園を選定委員が現地視察を行った。

事業者Aの運営する保育園の現地視察

令和2年7月30日(木)午前11時10分～12時50分

事業者Bの運営する保育園の現地視察

令和2年8月4日(火)午前11時～12時20分

事業者Cの運営する保育園の現地視察

令和2年7月30日(木)午前9時～10時30分

第7回 練馬区立石神井台保育園運営業務委託事業者選定委員会  
会議要点記録

令和2年8月25日(火)午後6時～7時

練馬区役所本庁舎12F 教育委員会室

出席者：学識経験者2名、有識者2名、練馬区立保育園園長経験者1名、  
こども家庭部長、保育課長、事務局(保育計画調整課長)

事業者の選定について

審査基準表の「A 提出書類等審査」、「B 現地調査・現地視察審査」、「C 園長候補者等ヒアリング審査」の項目ごとに評価し、事業者の選定を行った。

《主な意見》

事業者A：社会福祉法人尚徳福社会

- ・練馬区立高野台保育園の受託実績があり、子どもを主体とする区の保育についての理解度が高く、円滑な引継ぎが期待できる。
- ・認可保育園運営の実績が十分あり、利用者の満足度も高い。
- ・園長候補者は、経験が十分あり、組織マネジメントがしっかりしている。

事業者B：

- ・法人の運営が安定しており、また、ツールの導入等により、保育士の負担軽減が考えられている。
- ・一斉保育で子どもが主体性をもって遊べていない様子が見られた。
- ・園長候補者は、練馬区の乳児保育に刺激を受けていたが、熱意があまり感じられなかった。

事業者C：

- ・法人が新しい取り組みを積極的に行っている。
- ・東京都福祉サービス第三者評価が高く、また、保育士や子どもたちがいきいきとしていて、楽しそうな様子であった。
- ・園長候補者は、素直な人物で子どもたちからも慕われていたが、管理職経験が浅く、公立園を運営するのは難しいと感じられた。

評価の結果、二次審査を行った3事業者は、区の選定基準(1,000点中700点)を上回った。最も総合点が高い事業者A(社会福祉法人尚徳福社会)を石神井台保育園運営業務委託候補事業者として選定した。